

心に響く温かい言葉いっぱいの 学校をつくるために

子どもたちの日常の場面

学級や学年の子どもたちから、こんな言葉が聞こえてきていませんか？

かなしいな、、、



最近、調子に乗ってない？

あっち行け！

教職員の声掛けの場面

子どもたちに、「温かい言葉」をかけていますか？

〇〇してくれて、ありがとう！

元気がなさそうだけど、
どうしたの？



今日は〇〇さんの〇〇な姿
が見られて嬉しかったよ。

- 子どもたちが心の通う人間関係をつくるためには、相手を思いやる言葉や、相手が言われて嬉しいと感じる言葉を、日常生活で意識して使えるように指導することが大切です。
- 子どもたちの温かい心と言葉を育てるために、教職員をはじめ大人は、子どもたち一人一人の大切さを自覚し、相手に届く言葉を用いながら、信頼関係を築きましょう。子どもたちの姿は、対応している大人の姿を映し出す鏡にもなるのです。

令和4年4月
昭島市教育委員会
(昭島市いじめ問題防止会議)

子どもたちが、よりよい学校・学級をつくるためにはどうしたらよいかを考え、自覚して行動できる取組をしましょう。

学級への指導

取組時期【例】	ふれあい月間の時期（6月、11月）
テーマ例	・友達から言われて嬉しい言葉を集めよう。 ・一人一人が居心地の良い学級にするにはどうしたらよいだろう。
取組内容	①自分の体験などから考えをもつ。【自分自身】 ②グループごとに意見交換する。【グループ】 ③話し合って学級の行動目標を決める。【学級】
ゴール	テーマに対する自分の目標を決める。



児童会・生徒会活動による取組

取組時期【例】	ふれあい月間の時期（6月、11月）、あいさつ運動の時期
取組名の例	・あったかい言葉かけ運動 ・嬉しいコトバラエティ運動
取組内容	相手が言われて嬉しいと感じる言葉、心が温まる言葉（ありがとう、お疲れさま、〇〇さんのおかげで助かった等）を日常生活で意識して使うようにする呼び掛けを行う。
ゴール	一人一人が「あったかい言葉かけ宣言」をする。

教職員の言葉に関わるチェック

項 目	内 容	1学期	2学期	3学期
教職員と子どもとの関わり	児童・生徒に向かって、「お前たち」と呼んだり、呼び捨てにしたりせず、「〇〇さん」と、敬称をつけて呼ぶなど、日常的に言葉を整える意識をもつ。			
	児童・生徒の実態や発達の段階に応じて、「一緒に考えてみよう。」「〇〇するとできそうだね。」という共感的で見通しのもてるような指導を行う。			
	登下校時に、児童・生徒に率先して言葉を掛け（明るい声で挨拶をする等）、温かく送り迎えをする。			
教室環境	児童・生徒の作品に誤字・脱字があった場合、修正させてから掲示する。			
	教室や廊下の黒板や壁などに、落書き等がないよう気を付ける。			
学校が発行する文書	文書等を作成する際には、それを読む人の立場に立ち、意図が誤解なく伝わる表現になるように努める。			
	文書等に誤字・脱字や不適切な表現がないか、複数で点検してから発行する。			

1学期の振り返り	2学期の振り返り	3学期の振り返り

※こんな言葉を使ってみませんか ～否定ではなく提案&肯定！～

	ネガティブな表現	ポジティブな表現
提案	～しては、いけません	～したら、もっと良くなると思うよ
提案	～は難しいかもしれないね	一度、挑戦（トライ）してみたらどう
肯定	さわがしいね	活気があって、元気だね

<参考資料> ・いじめ総合対策【第2次・一部改訂】上巻 [実践プログラム編] P. 32・33
・人権教育プログラム 学校教育編 P. 26～28